

う よ み で ん 読

「地域生活」は、障害のある子どもを持つ親にとつて理想ではありません。

しかし実際には、社会資源がな
い、障害の程度

が重度すぎる、病氣や高齢になったとき困る、などといったことが頭をぐるぐる駆けめぐり、現実の生活と結び付かないことが多いのではないのでしょうか。

さらに親という立場上、やはり自分たちが元氣な間は、自分たちで面倒をみなくては、と考えている人が多いかもしれません。本書はそんな親たちにとつて本場に必要なことを、また施設職員や行政の福祉担当者には真の支援について、分かりやすく伝えてくれます。

第一部は福岡寿氏による「地域支援はバームクーヘンづくり」、



第二部は山田優氏による「地域生活移行は利用主体」という構成で、

どのようにして重層的な支援の体制を作ってきたのかについて、お二人それぞれが熱く語っています。

講演会の内容をもとにしてあるためか、ぐいぐいと引き込まれる内容で、たいへん読みやすくなっています。

そして同時に、本人を中心として話し合うことを発信し続けること、一声かければ集まれる人間関係、障害の重さを言い訳にしないこと、一度うまくいかななくても再びチャンスがあること、といったポイントがさりばめられています。

地域生活について考えたことはあるけれどという人にも、現在考え中の、おすすめの一冊です。

地域生活のススメ

西駒郷の地域生活移行にかかわって

福岡寿・山田優著

Sプランニング ☎ 03-3766-1636 1,050円 (税込)

(袖山啓子)